

## KMバイオ、「3回目接種」で治験検討

### 新型コロナワクチン、若年層も対象に

2021年10月22日（金）配信熊本日日新聞

KMバイオロジクス（熊本市）は、開発中の新型コロナウイルスワクチンについて、3回目接種の用途での臨床試験（治験）を検討していると明らかにした。同社のワクチンは従来型の不活化タイプで、これまでの治験で高い安全性が確認された。この特徴を生かそうと、若年層を対象にした治験も計画している。

3回目接種用途での治験は、既存のワクチンを2回接種した人に不活化ワクチンを投与し、安全性や有効性を確かめる。年内にも開始したい考え。若年層は、乳幼児を含む18歳以下を対象にする見通しだ。

国内では2回接種を終えた人は7割弱に達し、12月にも医療従事者を対象にした3回目接種が始まる予定。ただ、ワクチンを接種できるのは12歳以上。副反応への懸念から接種を回避する傾向もあり、特に若年層で強い。

KMバイオは3月、20歳以上の210人を対象にした初期段階の治験を始め、9月に結果を公表した。それによると、重度の副反応は高熱が出たがすぐ下がった1人のみで、高い安全性を示した。また、年齢層が低いほど有効性が高くなる傾向が出た。

安全性をさらに確認するため、対象を2500～3000人規模に拡大した最終段階の治験を今月中に始める計画。3回目接種や若年層向けの治験は、これとは別に実施する。ワクチンは2022年度中の実用化を目指している。

永里敏秋社長は「メッセンジャーRNAを使った既存のワクチンを打てない人に対して、安全性の高い不活化ワクチンという選択肢を示していきたい」と話している。